



清水三年坂美術館

kiyomizu sannensaka museum



京都市東山区清水寺門前産寧坂北入清水三丁目337-1

T E L 075(532)4270

F A X 075(532)4271

開館時間 10時～17時(入館は16時30分まで)

休館日 月・火曜日(展示替えのため休館する場合あり)

入館料 大人500円 / 大・高・中学生300円 / 小学生200円

交通アクセス

J R 京都駅市バス D 2 番のりば < 206 番東山通北大路バス

ターミナル行き > にて 20 分、清水道バス停下車徒歩 5 分

URL <http://www.sannenzaka-museum.co.jp>

清水三年坂美術館は、4年前に開館したばかりの新しい美術館です。展示しているのは幕末から明治にかけて作られた、金工・七宝・蒔絵・京薩摩焼です。

金工や蒔絵はジャンルが広く、いろいろなものに使われてきました。当館で展示しているものでいえば、金工では刀の鑿つばや小柄こづかといった刀装金具類や花瓶、香炉、香合、煙管、煙草箱、煙草入れ、自在置物等々。また蒔絵では硯箱、料紙箱、小箆筍、印籠、煙管筒等があります。

幕末・明治の美術品の多くは海外に流出しており、日本で一般の方が目にする機会が非常に少ないのが現状です。それにはいろいろな原因があるのですが、それらの美術品に興味を持っている日本人が少ないことや、外国人の方が高い評価をしているということがあげられます。今でも市場に金工の名品が出ると、外国の業者が購入しすぐに海外に流出してしまいます。

明治期において日本の金工技術は世界に誇れるもので、それも群を抜く世界一の技術力でした。奈良・平安時代には、仏像・仏具で発達し、その後は武家社会において、甲冑や刀、刀装金具の制作でさらに独自の技術を生み出し、世界に類を見ない水準に到達しました。日本が鎖国を解き明治になり、世界の万国博覧会に金工の置物や花瓶が出展された時、世界中が驚きました。片切彫ななこや魚子地、高肉象嵌で飾られた作品は、欧米人が見たことのないものだったからです。

幕末・明治の名工達、加納夏雄、海野勝珉、後藤一乗、正阿弥勝義等々。彼等の作品には、技術と芸術の両面での高い完成度と気品に満ちた存在感があります。今の時代に彼等に続く人がでることを願ってやみません。

当館では、幕末・明治の金工の名工達の作品を、1階

金工コーナーで常時展示しています。

また、2階の特別展示コーナーでも随時、金工や刀装具展を開催しています。



七宝 / 置物 並河靖之



七宝 金工 / 香炉 平塚茂兵衛

展覧会ご案内

「刀装具展」パート

平成17年5月29日(日)まで
開催中

拵こしらえ、鑿つば、小柄、目貫など

幕末・明治 蒔絵の名品展

平成17年6月1日(水)～
8月28日(日)

白山松哉、川之辺一朝、
赤塚自得ほか